新緑の但馬　養父・ハチ北高原

大屋加保坂・ハチ北の水芭蕉を訪ねる　2016.4.20.















香美町
村岡

ハチ北高原

水芭蕉★小沼

9

養父市
関宮

加保坂峠
水芭蕉公園★

★樽見大桜

八鹿氷ノ山IC◆

養父

312

和田山IC◆

新緑の但馬

2016 春

芽吹き始めた新緑の但馬路　　播但有料道路　朝来周辺





樽見の一本桜「仙桜」の堂々とした姿　養父市大屋町樽見

樽見の街を見下ろす新緑の山腹　すでに葉桜でしたが、一本桜の魅力はたっぷり

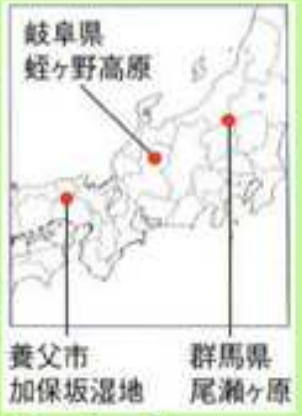




西日本で唯一の自生地　加保坂の水芭蕉

養父市大屋町 加保坂水芭蕉公園





氷ノ山山系が守ってきた氷河期の植物の生き残

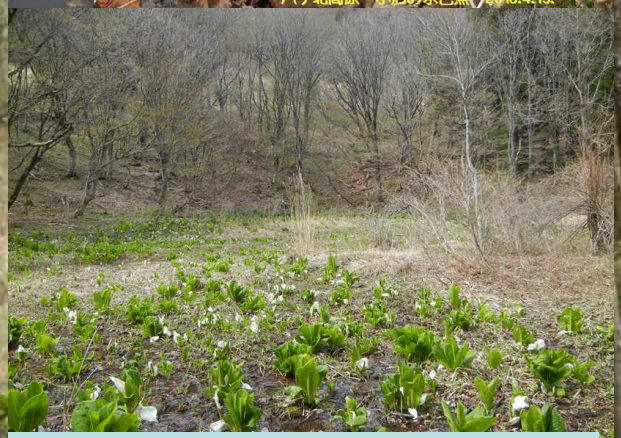
分布圏の外側のピンポイントで生育している
日本西南限　隔離分布の水芭蕉

水芭蕉の南西限 但馬　氷ノ山山系の山中で育つ水芭蕉　ルーツはさまざま でもその姿を見るとうれしい

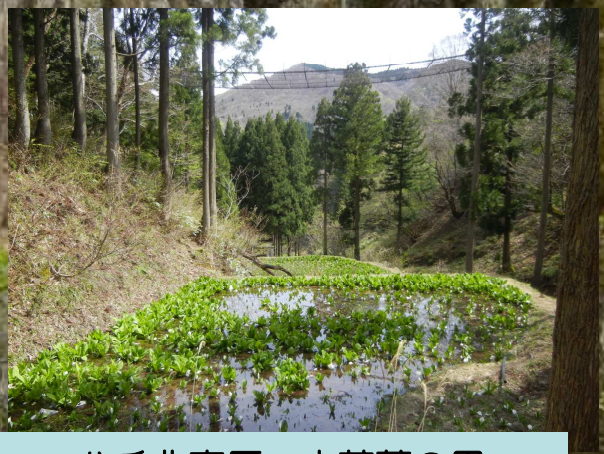












八チ北高原　小沼高層湿原
自然環境の中での観察用栽培

加保坂峠　高層湿原自生地
自然の中で南西限自生

八チ北高原　水芭蕉の里
休耕田を利用した栽培

氷河期の生き残り 水芭蕉。 最近の地球温暖化のなかで、自生地だった高層湿原の乾燥化が進み、
環境適用を果たしながら 命をつないできた水芭蕉とは言いながら、その環境はますます厳しくなっている。
そんな地球環境の中 水芭蕉の最南西限で 自生地・自生地に近い自然人工環境・休耕田人工環境の
3つの環境で咲く水芭蕉を見ることができました。
野草と乾燥化と戦いながら、大きくはなれず 小ぶりながらもたくましく生きてきた加保坂湿原の水芭蕉。
その歴史を聞き、その姿に私は一層 惹かれ、また その元気な姿に安堵も。 頑張れよ!! と。

芽吹きの春の水芭蕉 どの水芭蕉に一番惹かれるかは 人それぞれ。
自然・人工・人工の自然 それぞれでの美しさ。 人間のやってきた自然破壊にも 思いをはせる良い機会でした

新緑の但馬

2016 春



大屋と関宮を結ぶ加保坂峠越　　養父市加保坂峠

新緑の中に咲くミツバツツジが美しい水芭蕉咲く加保坂の古生湿地への遊歩道


新緑の但馬
2016 春
ハチ北ゲレンデ脇　水仙畑が満開に　香美町村岡
奥に妙見山がながめられ、手前の水仙畑と白樺の木も結構有名と聞く

新緑の但馬

2016 春



南西限で自生する氷河期の生き残りの水芭蕉
養父市　加保坂峠　加保坂湿原

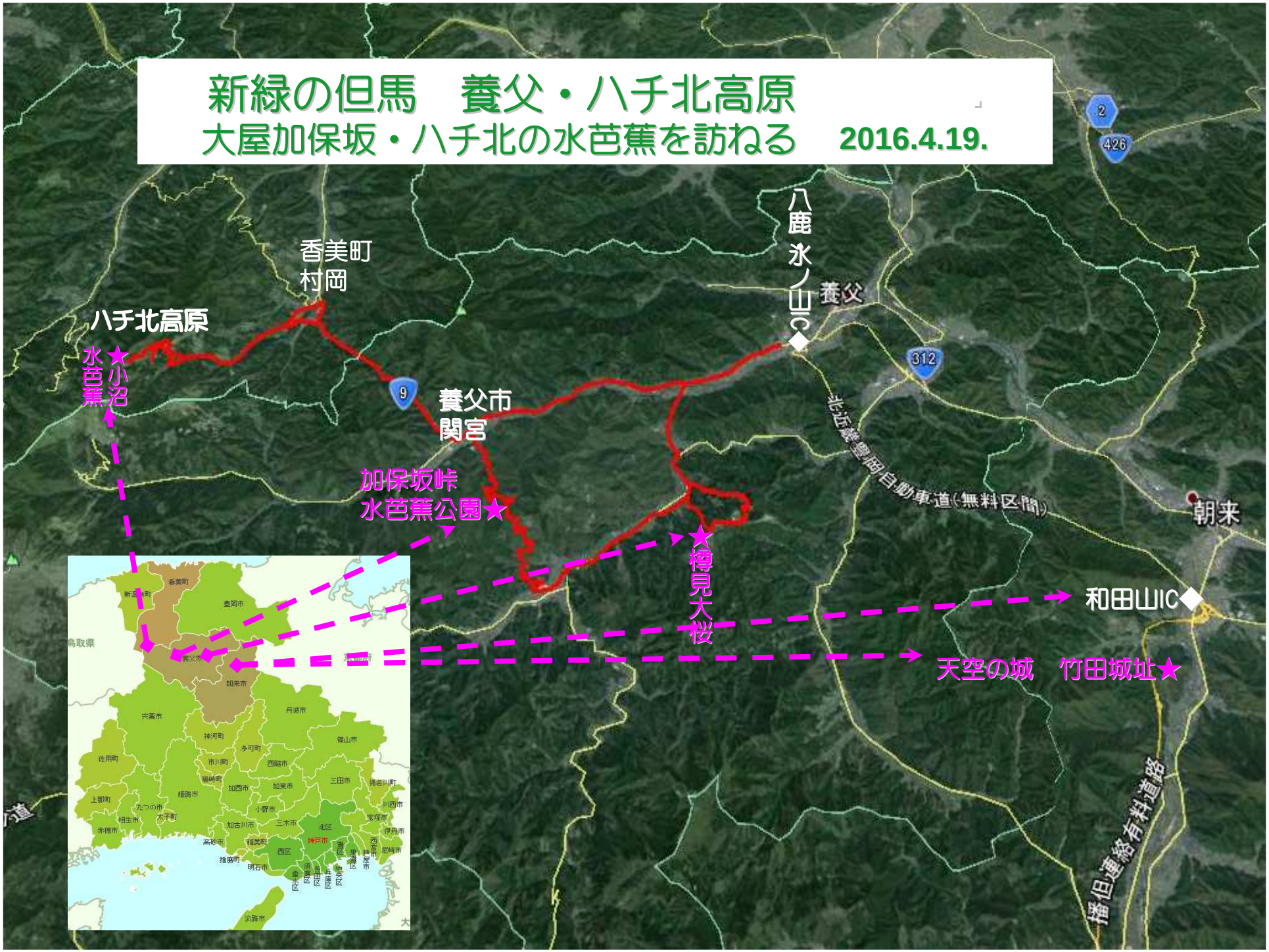
思っていた湿原イメージと随分違う。　乾燥化が随分進んでいて、水芭蕉も小さく湿原の草地の中に埋もれている。目を凝らすとこの草原状湿原ののあちこちで水芭蕉が咲いている。　温暖化による乾燥化と戦いながら　いまに命をつないできた水芭蕉である



水芭蕉が咲くハチ北高原の高層湿原　小沼に咲く水芭蕉

新緑の但馬　養父・ハチ北高原

大屋加保坂・ハチ北の水芭蕉を訪ねる　2016.4.19.





芽吹き始めた新緑の但馬路　　播但有料道路　朝来周辺　2016.4.20.


新緑の但馬路　萌える山並　　播但有料道路　朝来周辺　2016.4.20.



新緑の但馬路　　播但有料道路　天空の城　竹田城址　2016.4.20.



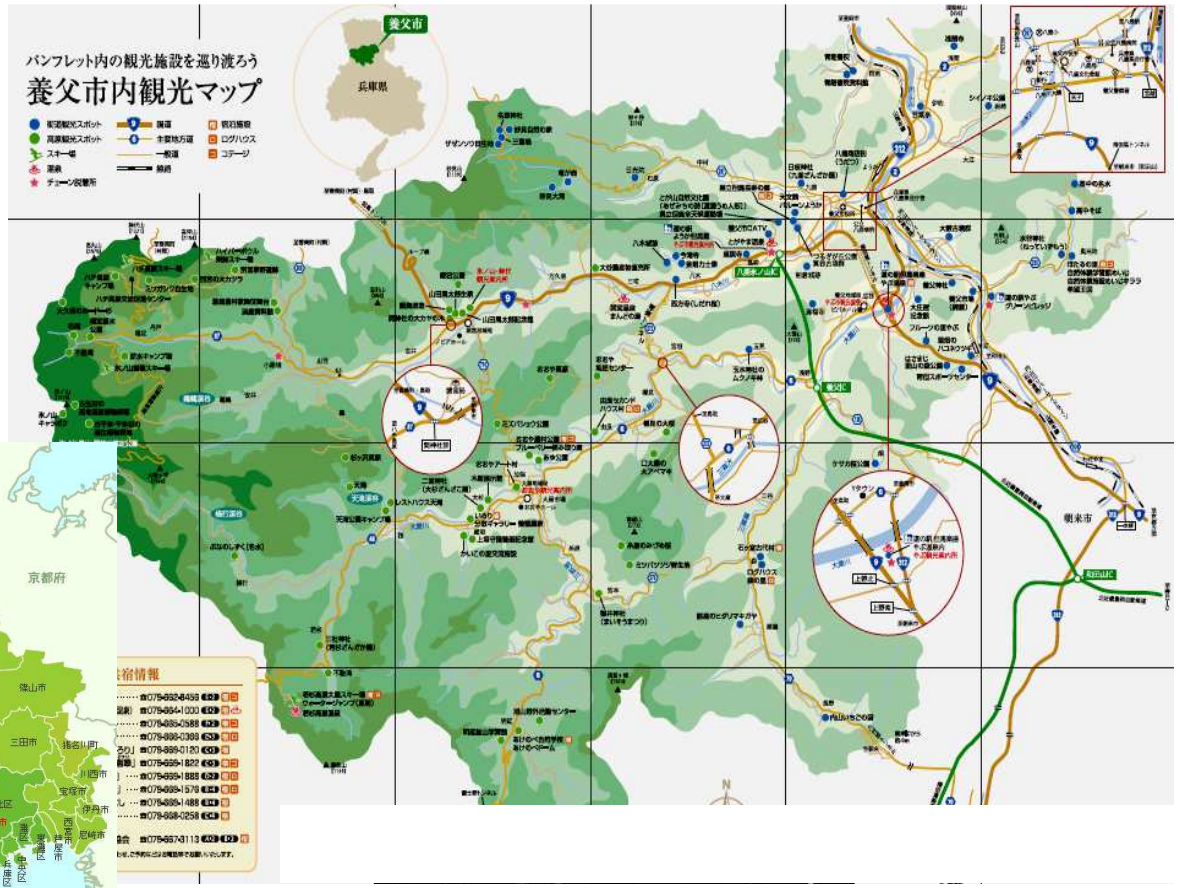
芽吹き始めた新緑の但馬路　　播但有料道路　養父IC周辺　2016.4.20.



新緑の但馬路　　播但有料道路　養父IC周辺　2016.4.19.

道の駅でハチ北高原の水芭蕉への情報等を教えてもらって　ルートを決める

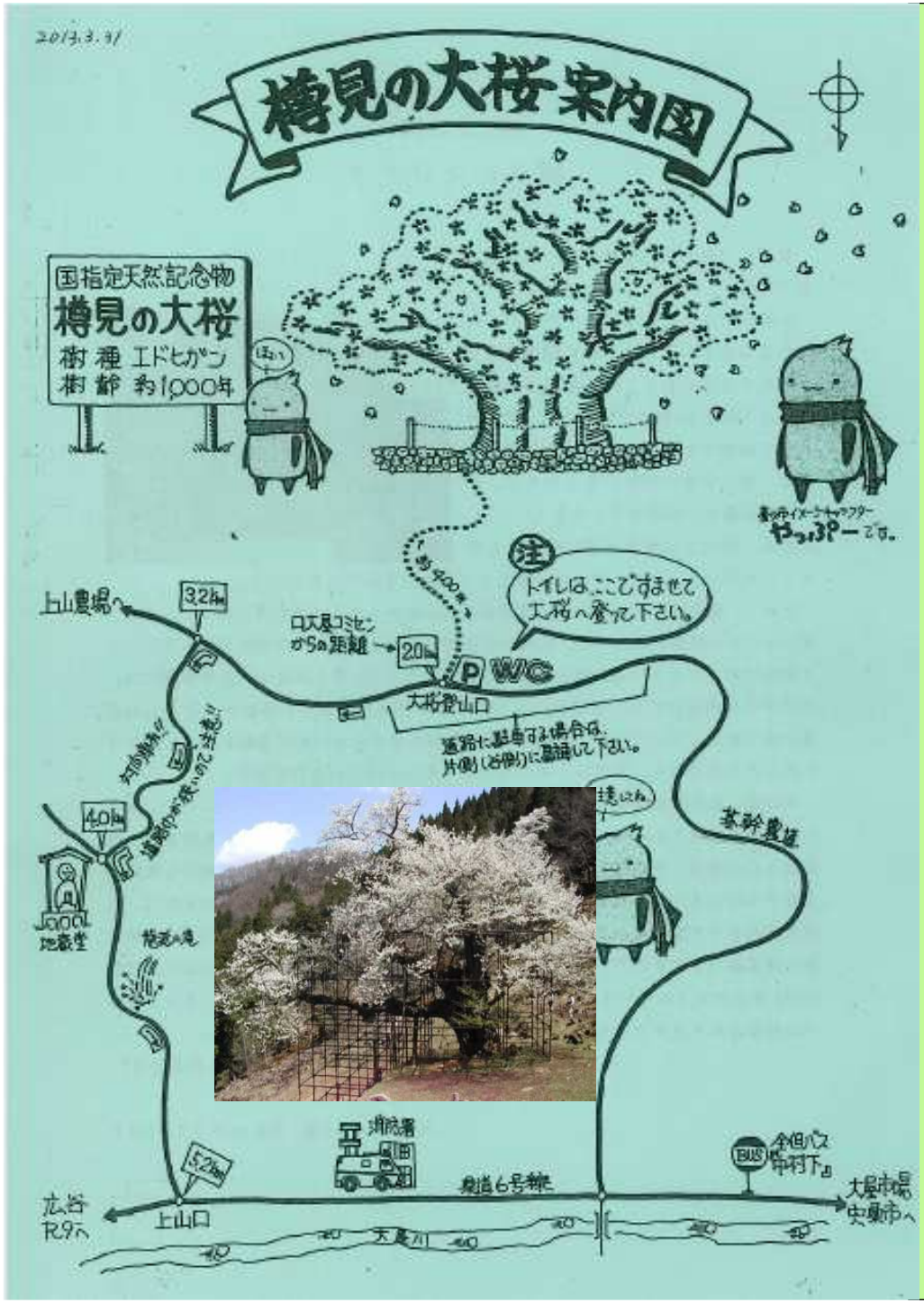
播但自動車道終点の和田山ICからそのまま北へ　部分開通している北近畿・豊岡自動車道（無料区間）に入り、
八鹿・氷ノ山ICを出るとすぐ前にある道の駅「八鹿たじま蔵」に入り、観光案内所へ。
あやふやだったハチ北高原の水芭蕉への地図をもらいに行く。
この案内所で、思いがけず　この養父市大屋町加保坂にある水芭蕉は西日本唯一の自生地であることを知り、
また、そこへの途中に「樽見の大桜」があることを知りました。　以前から見たかった一本桜。　もう葉桜と聞きましたが、
ちょっと立ち寄って　それから加保坂の水芭蕉を見てから、さらに北に位置するハチ北高原の水芭蕉を見に行くことに。







八鹿・氷ノ山ICを出るとすぐ前にある道の駅「八鹿たじま蔵」



西日本で唯一の自生地　加保坂の水芭蕉

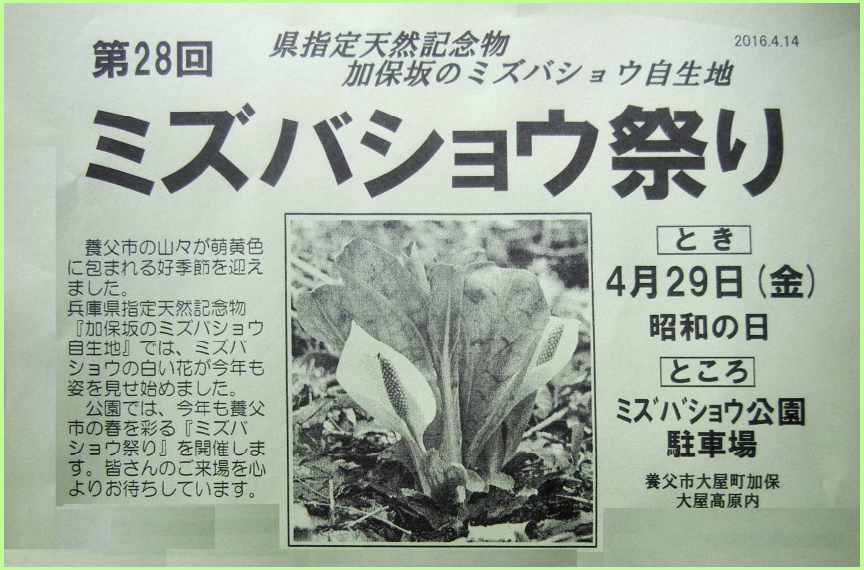
養父市大屋町 加保坂水芭蕉公園





氷ノ山山系が守ってきた氷河期の植物の生き残り

分布圏の外側のピンポイントで生育している
日本西南限　隔離分布の水芭蕉




加保坂の水芭蕉
樽見の大桜
妙見自然の家
ザゼンソウ自生地
三重塔
日枝神社
(九頭ざんざか祭)
八鹿商店街
(うだつ)
天文館
バルーンようか
兵庫県
八鹿総合庁舎
養父市役所
公立
八鹿病院
とが山自然文化園
(あぜみちの詩[道遥うめ人形])
県立但馬長寿の郷
県立但馬金天候運動場
道の駅
ようか但馬蔵
やぶ市観光案内所
養父市CATV
とがやま温泉
今滝寺
金剛力士像
高照寺
八木
西方寺(しだれ桜)
八鹿氷ノ山IC
つるぎが丘公園
箕谷古墳群
朝倉城跡
大薮古墳群
光明山
[554]
水谷神社
(ねっていずもう)
道の駅但馬楽座
やぶ温泉
養父神社
養父市場
(錦鯉)
道の駅やぶ
グリーンビレッジ
養父地域局 広谷
やぶ市観光協会
ビバホール
清福寺
大庄屋
記念館
フルーツの里やぶ
堀畑の
ハコネウツギ
はさまじ
里山の森公園
南但スポーツセンター
養父IC
大屋山
[556]
関宮温泉
まんどの湯
宮垣
玉見
おおや
堆肥センター
玉水神社の
ムクノキ林
おおや高原
由良セカンド
ハウス村
由良
樽見
樽見の大桜
口大屋の
大アベマキ
ミズバショウ公園
おおや農村公園
ブルーベリー摘み取り園
あゆ公園
おおやアート村
加保
大屋地域局
おおや観光案内所
大屋市場
おおやホール
木彫展示館
二宮神社
(大杉ざんざこ踊)
大杉
いろり
分散ギャラリー
養蚕農家
蔵
上垣守国養蚕記念館
かいこの里交流施設
レストハウス天滝
天滝渓谷
天滝
天滝公園キャンプ場
杉ヶ沢滝駅
関神社前
関宮局
ソビアホール
ループ橋
山田屋
飯田酒造
関神社の大カヤの木
古井
宝引山
[304]
糸原のみつめ桜
ミツバツツジ群生地
宮本
御井神社
(まいそうまつり)
能座のヒダリマキガヤ
朝来市
至鳥取
至広谷
至ハチ高原
至朝来市
至養父市
至八鹿
至和田山
至北近畿豊岡自動車道
大屋川
八木川
[530]
[312]
[9]
[6]
[5]
[87]
[48]
[714]
[372]
[373]
[136]
[104]

ハチ北高原散策マップ

高原の風の中、
散策で出会える
可憐な草花たち。

お気に入りの花を
見つけながらゆったりとした
高原の散策を
楽しんでください。



ニリンソウ【キンポウゲ科】
開花時期●4月中旬～5月中旬



スイセン【ヒガンバナ科】
開花時期●4月中旬～5月上旬



タニウツギ【スイカズラ科】
開花時期●5月～6月初旬



ボタン【ボタン科】
開花時期●5月上旬～5月下旬



ザゼンソウ
座禅草【サトイモ科】
本州以北の湿地には える。座禅姿にみたてられる仏炎苞（ぶつえんぽう）は高さ約20cm。

開花時期
3月下旬～4月中旬



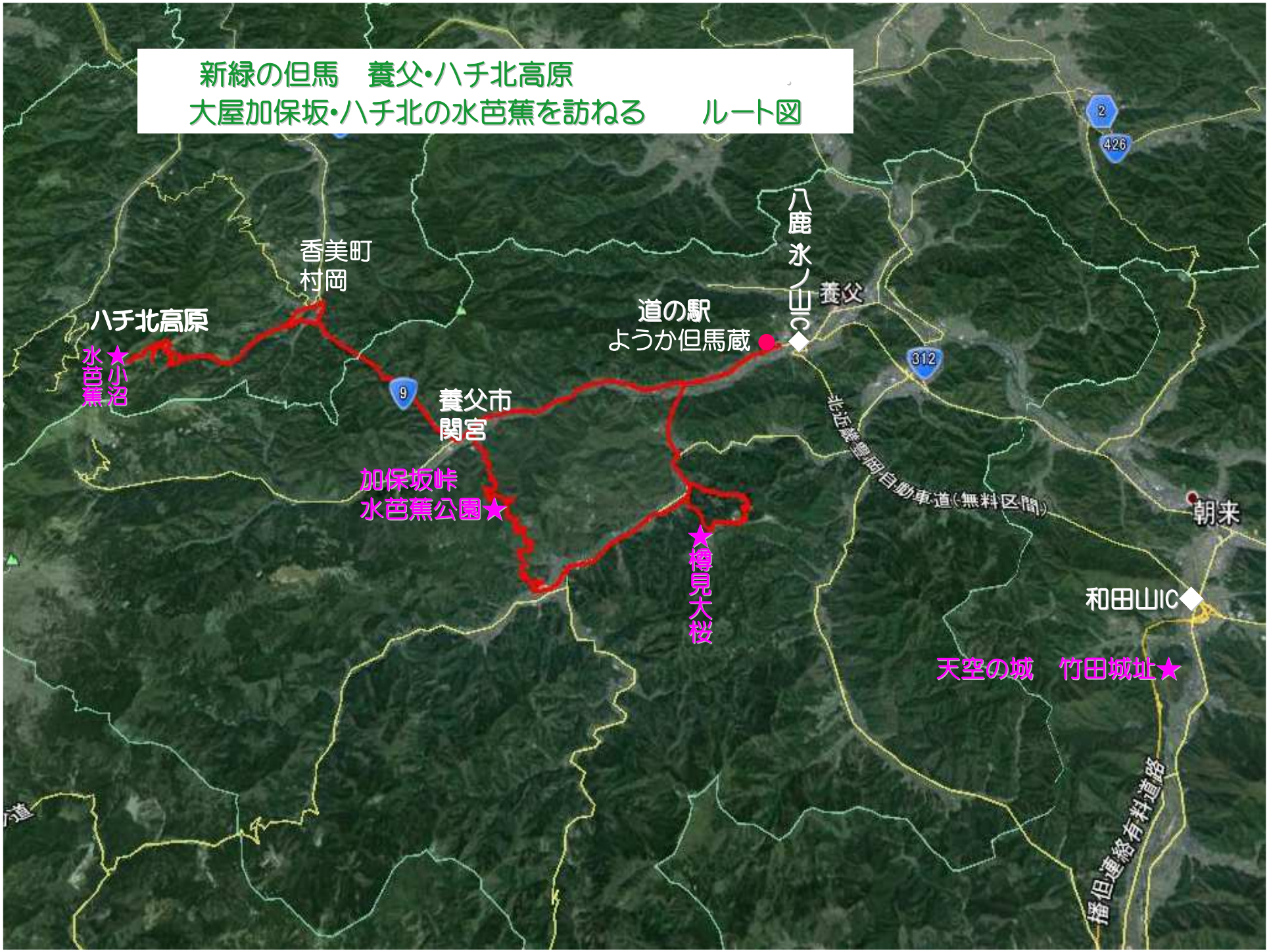
ミズバショウ
水芭蕉【サトイモ科】
湿地にはえる。葉は長だ円形で香い病がある。春には白い仏炎苞（ぶつえんぽう）に包まれた花序を出す。

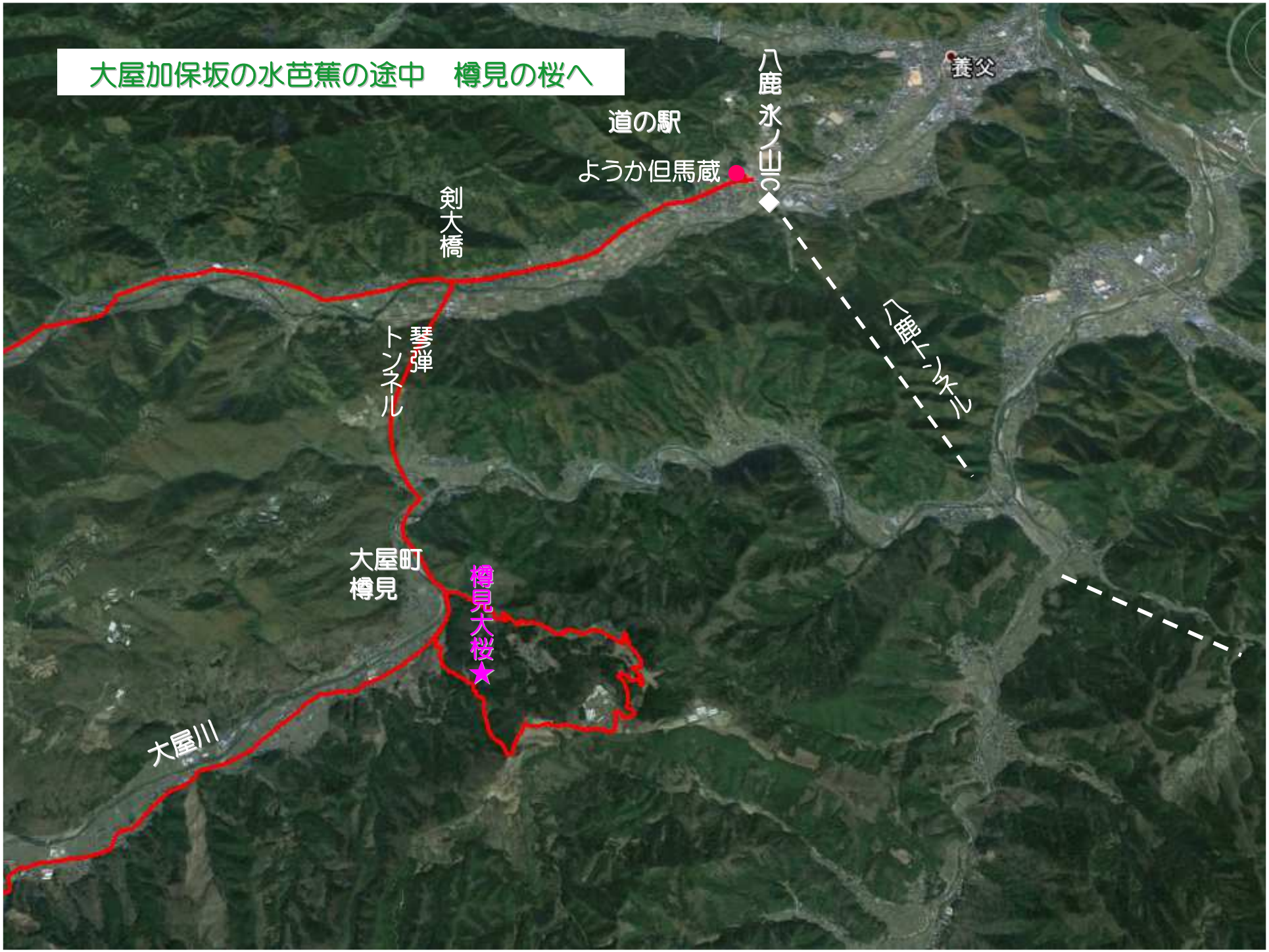
開花時期
4月上旬～5月中旬

「ハチ北の神々様」
(1) 六体地蔵
(2) 太田神社
(3) 地蔵堂
(4) 龍宮神社
(5) 愛宕神社
(6) 牛鼻地蔵
(7) 大山祇神社
(8) 中ノ宮神社

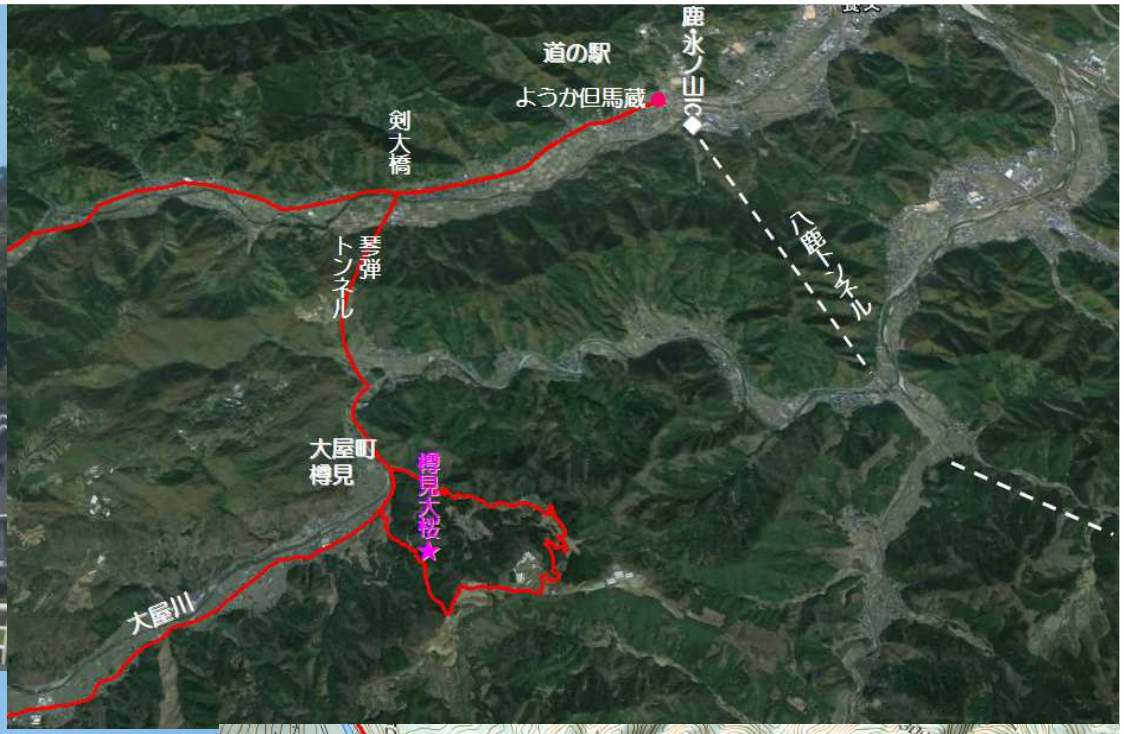
※駐車場は駐車料金無料です。
※植物など荒らさないで下さい。
※ゴミはお持ち帰り下さい。




新緑の但馬　養父・ハチ北高原
大屋加保坂・ハチ北の水芭蕉を訪ねる　　ルート図
香美町
村岡
ハチ北高原
水芭蕉★小沼
9
養父市
関宮
加保坂峠
水芭蕉公園★
道の駅
ようか但馬蔵
八鹿氷ノ山IC◆
養父
312
北近畿豊岡自動車道（無料区間）
★樽見大桜
2
426
朝来
和田山IC◆
天空の城　竹田城址★
但馬高速有料道路


大屋加保坂の水芭蕉の途中　樽見の桜へ
八鹿氷ノ山IC
養父
道の駅
ようか但馬蔵
剣大橋
琴弾トンネル
八鹿トンネル
大屋町樽見
樽見大桜★
大屋川




道の駅
ようか但馬蔵
剣大橋
琴弾トンネル
大屋町
樽見
樽見大桜★
大屋川
鹿氷ノ山
八鹿トンネル


剣大橋を渡って　大屋町樽見へ　2016.4.20.


大屋町
樽見
おうみ
大屋町上山
樽見大桜★
樽見の大ザクラ
大屋町中
口大屋の大アベマキ



大屋川沿いの樽見の集落から　樽見の大桜のある山へ　芽吹きの山が美しい



樽見大桜への登り路　2016.4.20.

樽見大桜への登り路　2016.4.20.



樽見大桜への登り路　　2016.4.20.

石垣で区切られたかつての山腹斜面　雑木林の中に桑畑跡が広がっている



雑木林を抜けた上方　新緑の山腹に若葉を纏った一本桜の巨木
樽見の大桜「仙桜」の堂々とした姿が見えた　　2016.4.19.



一本桜の巨木　樽見の大桜「仙桜」の堂々とした姿　　2016.4.20.



樽見の大桜「仙桜」から眺める北　妙見山など中国山地の山並　　2016.4.20.



国指定天然記念物

樽見の大ザクラ

指定年月日　昭和二十六年六月九日
所在地　兵庫県養父市大屋町樽見字ケジメ八五番
所有者　養父市
桜の種類　エドヒガン

兵庫県下で最大のエドヒガン桜です。樹高は一三・八㍍、幹周りは目通りで六・三㍍、根周りは七・〇㍍あります。地上約二㍍のところで幹が分かれ、樹冠の広がりは東西約一四・四㍍、南北約二一・一㍍に及びます。

この桜は、樹齢が千年を越えるといわれ、「仙桜」と呼ばれています。出石藩の儒学者であった桜井舟山が、文政六年（一八二三）に見学して「仙桜」と命名しました。

地誌『校補但馬考』に「この樹は、元禄年間（一六八八～一七〇四）前後に最も盛んで、その当時は高さが五丈を超え、枝は二〇間四方にひろがり、花が咲くと、白雪に覆われたように白くて美しい」と記しています。

昭和四十年頃から幹や枝が腐朽し、樹勢の衰えが深刻な問題になりました。このため、平成九年から兵庫県教育委員会、兵庫県樹木医会の支援をうけて、樹勢回復のための治療を続けています。現在では、兵庫県を代表する桜の名所といわれるまでに回復してきました。

平成二十五年一月

養父市・養父市教育委員会
樽見大桜保存会





大桜の下の石組みはかつての桑畑跡　2016.4.20.



大桜から樽見の集落に再度降り、北の加保坂峠湿原の水芭蕉公園へ　2016.4.20.

樽見の大桜から加保坂峠の水芭蕉公園へ

県道6号線を大屋川に沿って大屋町加保へ川を渡り、 山脈を超えてまっすぐ北へ国道9号線関宮へ結ぶ県道714号大屋関宮線の加保峠越
加保峠の古生湿地には西日本唯一の水芭蕉自生地がある







加保坂峠の水芭蕉自生地　水芭蕉公園

標高638mの尾根の大屋側にあたる南斜面に自生地がある。
地形の変化によって南北幅200m、東西幅140mの袋状の谷地形ができていて、尾根から約43mほど　下がった標高595m付近から水が湧きだし、ここに南北長さ100m、東西幅40mほどの加保坂湿地があり、深いところで泥炭が100cmほど堆積。
標高595mから標高580mの緩やかな傾斜地が、ミズバショウの自生地となっていて、面積3,967　平方メートルが兵庫県指定文化財になっている。

現在、1,960個体のミズバショウが生育しています。湿地の中央が少し低くなって細い水路となっており、その水の流れにそってミズバショウが密集。
しかしほとんどが小形のもので、30cm以上の大形の個体は250個体ほどで、大形のものは湿原の上部や木陰などにみられる。
兵庫県では六甲山の高山植物園、村岡のハチ北高原などで観察のためにミズバショウが栽培されていますが、加保坂のミズバショウは、人間が植えたものではない天然の自生地として大変貴重なもの。　　**養父市ホームページ　水芭蕉公園より**



新緑の美しい山中　曲がりくねった坂道を登り切って加保坂峠へ　2016.4.20.



新緑の美しい山中　曲がりくねった坂道を登り切って加保坂峠へ　2016.4.20.


新緑の美しい山中　ミツバツツジも今が盛り　予想的中です　2016.4.20.



加保坂峠の水芭蕉自生地　水芭蕉公園

標高638mの尾根の大屋側にあたる南斜面に自生地がある。
地形の変化によって南北幅200m、東西幅140mの袋状の谷地形ができていて、尾根から約43mほど　下がった標高595m付近から水が湧きだし、ここに南北長さ100m、東西幅40mほどの加保坂湿地があり、深いところで泥炭が100cmほど堆積。
標高595mから標高580mの緩やかな傾斜地が、ミズバショウの自生地となっていて、面積3,967　平方メートルが兵庫県指定文化財になっている。

現在、1,960個体のミズバショウが生育しています。湿地の中央が少し低くなって細い水路となっており、その水の流れにそってミズバショウが密集。
しかしほとんどが小形のもので、30cm以上の大形の個体は250個体ほどで、大形のものは湿原の上部や木陰などにみられる。
兵庫県では六甲山の高山植物園、村岡のハチ北高原などで観察のためにミズバショウが栽培されていますが、加保坂のミズバショウは、人間が植えたものではない天然の自生地として大変貴重なもの。　　**養父市ホームページ　水芭蕉公園より**





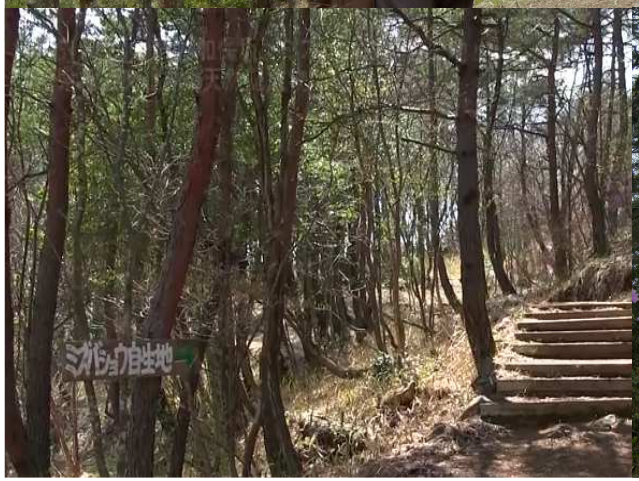




新緑の美しい山中　登り切って加保坂峠　ここが水芭蕉公園の入口　2016.4.20



水芭蕉公園への遊歩道　新緑の中で咲くミツバツツジが美しい







加保坂のミズバショウ自生地

（兵庫県指定天然記念物
（一九七八年三月二十三日指定）

愛唱歌「夏の思い出」で知られるミズバショウは、国内では北海道や中部以北の高山などの湿原に多く分布しているサトイモ科の多年草である。

自生地としての南限は永い間、白山の事、岐阜県の姫ケ野高原とされてきた。

一九七五年、植物学者・矢野悟道教授らによって加保坂のミズバショウが確認され、湿原地下の泥炭層の花粉分析の結果、約一、〇〇〇年前からの存在が明らかになった。

これにより、当地は日本でのミズバショウ分布の南西限となり、学術的に貴重な自生地となった。

ミズバショウの見頃は、四月下旬から五月上旬にかけての開花期である。

養父市・養父市教育委員会



新緑の中で咲くミツバツツジが美しい湿原への遊歩道　　2016.4.20.
水芭蕉の咲く加保坂の古生湿地へは枝尾根を越えた南側
そこへ気持ちの良い遊歩道が続く



新緑の中で咲くミツバツツジが美しい　湿原への遊歩道　2016.4.20.



新緑の中で咲くミツバツツジが美しい　湿原への遊歩道　2016.4.20.







15分ほど新緑を楽しみながら歩いて水芭蕉が自生する加保坂湿原へ　2016.4.20.



水芭蕉が自生する加保坂湿原　2016.4.20.

思っていた湿原イメージと随分違う。　乾燥化が随分進んでいて、ほとんど水がみえず、水芭蕉も小さく湿原の草地の中に埋もれている。

目を凝らすと　この草原のあちこちで水芭蕉が咲いている。
特にこの湿原の中央部の窪地状のところには葉の大きな水芭蕉が集まって咲いている。



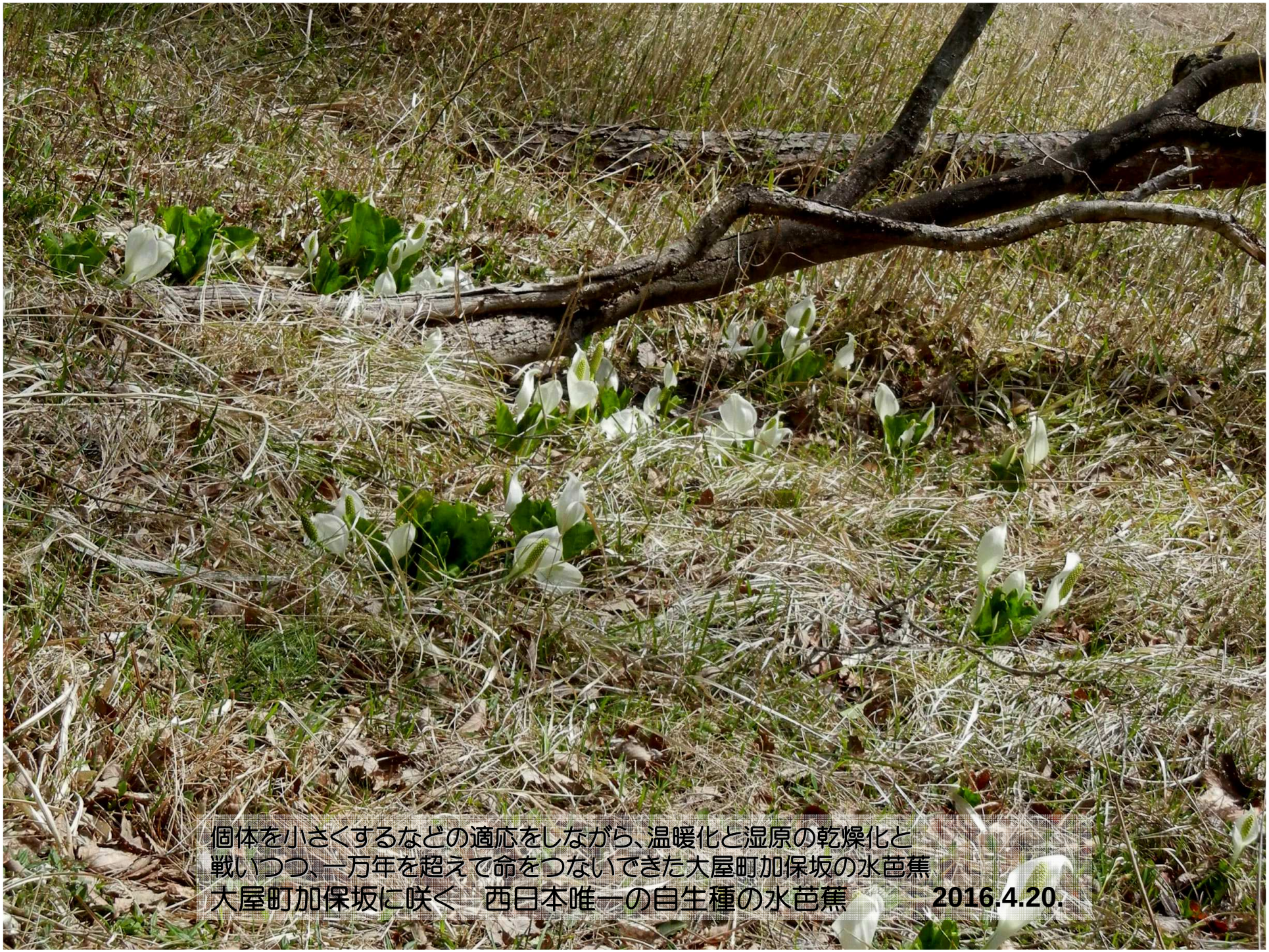
目を凝らすとこの草原や樹木の下のあちこちで　小さな水芭蕉が咲いている。
水芭蕉は寒冷地の水の豊富な山中の湿地に咲く氷河期の生き残り。
その南限は岐阜県の北端　白山山系ひるがの高原の湿地帯。
そこからも随分遠く離れたこの但馬の山地で、次第に温暖化してゆく気候変動の中、幾多の困難を乗り越え、約1万年の長きにわたって、ポツンとこの地で自生してきた水芭蕉。よくもここまで、命をつないできたと…。

数万年前の氷河期に広く分布していた植物が温暖化と共に北の地方や高山残った例は幾つもある。　また、わずかではあるが、暖地の低地にも気候に適応して点在して残る例があり、これらを「遺存植物」と呼び、や水芭蕉やミツガシワなどが有名である。
冬には厳しい寒さと積雪があり、地下水が豊富なこの地を含む兵庫県の最高峰氷ノ山山系。　ここにはそんな氷河期の生き残り植物が多いという。
この加保坂の水芭蕉もそんな依存植物。
個体を小さくするなどの適応をしながら、温暖化と湿原の乾燥化と戦いつつ、一万年を超えて命をつないできた。　そんな思いで　この加保坂の水芭蕉を眺めると　その貴重さとともに一層　その愛らしさが増す。
出会うことができてよかった。本当によかった。　これからも頑張れよと。

南西限の水芭蕉の自生地　加保坂湿原　**2016.4.20.**



南西限の自生地　加保坂湿原に咲く水芭蕉　　2016.4.20.



個体を小さくするなどの適応をしながら、温暖化と湿原の乾燥化と
戦いつつ、一万年を超えて命をつないできた大屋町加保坂の水芭蕉

大屋町加保坂に咲く　西日本唯一の自生種の水芭蕉　　2016.4.20.





加保坂湿原の管理をしている地元の管理員の人から　この地の水芭蕉の貴重さや
発見のいきさつ　草に覆われているこの湿原の下には古生代からの泥炭層があり、
また、この地がヒスイなどを出す蛇紋岩質のアルカリ性で植物が育ちにくく、耕作不適
地であったことで、他の植物の侵入や耕地にならず荒らされず、今に湿地が残ってきた
こと。　また、今も豊富な地下水が流れ、湿原を保っていることや、　いま直面している
乾燥化や異種混入排除など　この地の水芭蕉を守ってゆく厳しい現実等々
いろいろ教えていただきました。　　**2016.4.20.**

ミズバショウ公園



1970年春　発見当時のミズバショウ

兵庫県指定天然記念物

指定年月日　1976年3月23日

加保坂のミズバショウ自生地

養　父　市



加保坂湿地のミズバショウ発見・確認の経緯と日本のミズバショウ分布域

ミズバショウは寒帯から亜寒帯及び日本の高山から亜高山の湿地に自生する湿生植物です。1970年以前の日本のミズバショウ分布を見ると中部地方以北です。ところが1970年春、大屋町（現養父市大屋町）加保の住民のひとりが加保坂峠周辺を歩いた時、大きな白い花に出会い“写真にしよう”と地元の写真家を案内しました。

写真家は現地の植物体と写真を兵庫県生物学会員に届けました。当時、周辺一帯は農地への高原開発の予定地となっていましたが、生物学会を始め近畿の植物研究者の“西日本初のミズバショウ湿地を保護すべき”との声の高まりの中、翌々年に湿原植物の専門家である故・矢野教授（神戸女学院大学）に再調査を依頼しました。その結果、現地の貴重性が再確認され、天然記念物指定への流れとなりました。

兵庫県北部の山地で、標高僅か500m余の暖温帯域に“自生とは!?”と疑問視されましたが、三好教授（岡山理科大学）によって湿地内ピート（植物遺体）層を調査した結果、深さ95cmでミズバショウの花粉が確認され、“炭素14年代測定法による分析の結果、約8,000年前のもの”と発表されました。従って、当地のミズバショウは氷河期末期から今日まで生き続けていることになります。

発見時、湿地にはミズバショウ以外に亜寒帯や亜高山の湿地に見られる植物が次々と確認されています。



堀田教授（京都大学）によると、ミズバショウは今から200万年前にユーラシア大陸から日本に入り、1万年前まで全国に分布していました。氷ノ山山頂付近の「古生沼」でも花粉分析の結果、ミズバショウの花粉が確認されています。

加保坂湿地にミズバショウが生き残ったわけ

西日本の暖温帯域に氷河期末期の植物が今日まで生き残ったのでしょうか。この疑問を解く鍵として、以下の点が考えられます。

（1）　当湿地（標高570m）の湧水温を数年に亘り測定した結果は次の通りです。

4～5月　　11.4～11.6℃
7～8月　　13.1～13.6℃
11～12月　10.8～10.9℃
年平均は12.1℃です。

比較データとして、鵜縄湿地（標高880m）の湧水温測定結果は次の通りです。

4～5月　　8.7～9.1℃
7～8月　　9.4～9.8℃
11～12月　8.4～8.0℃
年平均は9.0℃です。

以上のデータでも分かるように生育環境は亜寒帯や亜高山の湿地に近い条件を備えています。

（2）　地元の古老の話では「加保坂峠付近には“恐ろしい沼地がある”ので近寄るな!」と聞いていました。この言い伝えがあったので、牛の餌草刈の人々も近寄らなかったといいます。

1970年、現地調査に協力した県立八鹿高等学校大屋分校生の一人は、この湿地の泥沼に沈み、引き上げられましたが、長靴は今も湿地内に残っています。

（3）　当地は蛇紋岩地でアルカリ性が強く貧栄養なので、新たな植物の進入や繁茂がありませんでした。従って、敗戦直後の農地不足の時代でも地元民は開墾をしませんでした。

（4）　この他、但馬の山岳山地の湧水湿地を調べたところ、北方系の寒地性湿生植物のリュウキンカやチョウジギク、オオバミゾホウズキなどが生き残っています。

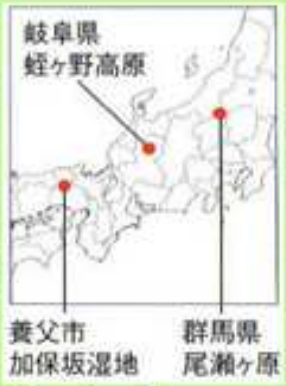




西日本で唯一の自生地　加保坂の水芭蕉

養父市大屋町 加保坂水芭蕉公園





氷ノ山山系が守ってきた氷河期の植物の生き残

分布圏の外側のピンポイントで生育している
日本西南限　隔離分布の水芭蕉





加保坂湿原に咲く水芭蕉　　2016.4.20.



加保坂湿原に咲く水芭蕉　　2016.4.20.



加保坂湿原に咲く水芭蕉　　**2016.4.20.**



加保坂湿原に咲く水芭蕉　　2016.4.20.



加保坂湿原に咲く水芭蕉　　2016.4.20.



加保坂湿原に咲く水芭蕉　　2016.4.20.



加保坂湿原を取り囲む尾根は春一色　新緑の中に咲く満開のミツバツツジ　2016.4.20.



加保坂峠からながめる南側、須留ケ峰が見える。　2016.4.20.


加保坂水芭蕉公園から北へハチ北高原へ
★小沼
水芭蕉
ハチ北高原
香美町
大笹
香美町
福岡
▲鉢伏山
鉢伏高原
9
ループ橋
養父市
関宮
9
八木川
剣大橋
八鹿氷ノ山IC
県道714号
大屋関宮線
琴弾
トンネル
加保坂峠★
水芭蕉公園
大屋町
樽見
大屋川
樽見大桜★
大屋町
加保
大屋町
夏梅



加保坂峠から北の関宮へ県道714号線を下って
関宮で国道9号線に合流して　さらに北のハチ北高原を目指す。

北へ降る県道741号線の尾根は春一色　新緑の中に咲く満開のミツバツツジ　2016.4.20.



峠から北へ曲がりくねりながら山中を下ってゆくと　　.

突然視界が開け、樽見の大桜から眺めた妙見山がみえた　**2016.4.20.**



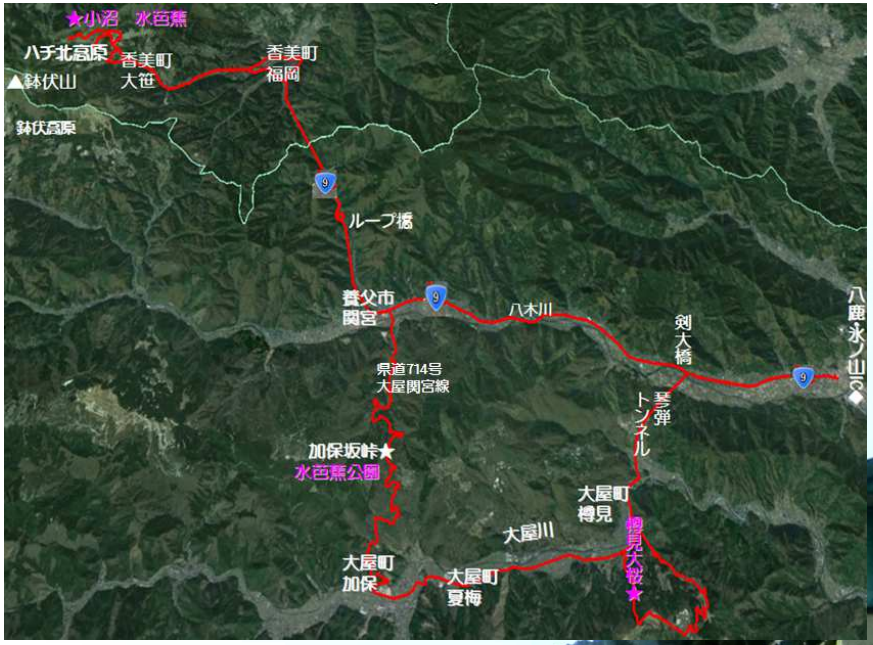
新緑の中にミツバツツジ・山桜　県道741号線の尾根は春一色　2016.4.20.



まもなく　妙見山の麓　関宮の里が眼下に見える　　2016.4.20.
その後ろには　氷ノ山から鉢伏と続く山並みへの谷筋が見える


県道741号線　関宮の里近く　2016.4.20.





国道9号線　関宮の里　2016.4.20.



関宮　村岡から鳥取へ抜ける国道9号線と鉢伏高原への県道との分岐
国道9号線　このまま川筋を西へ行けば　氷ノ山･鉢伏山の登山基地　鉢伏高原 福定へ
国道9号線は右へ折れて　中国山地の山塊を但馬トンネルで抜けて　香美町村岡･ハチ北高原へと抜けてゆく



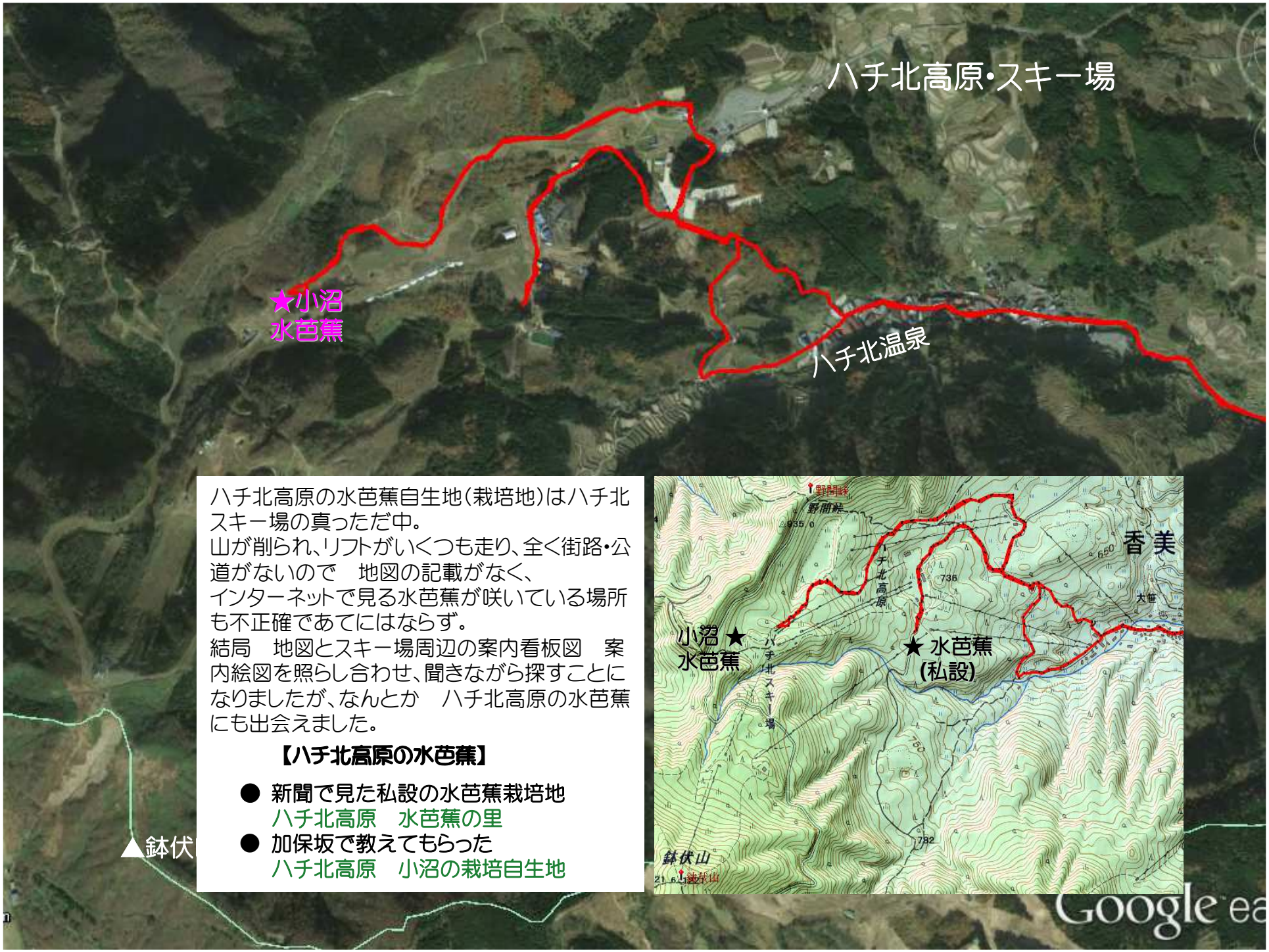






国道9号線　関宮ループ　　2016.4.20.


▲鉢伏山
香美町村岡区
大笹
ハチ北高原
★小沼
水芭蕉
大谷川
香美町村岡区
福岡
© 2016 ZENRIN
Google earth



ハチ北高原の水芭蕉自生地（栽培地）はハチ北スキー場の真っただ中。
山が削られ、リフトがいくつも走り、全く街路・公道がないので　地図の記載がなく、
インターネットで見る水芭蕉が咲いている場所も不正確であてにはならず。
結局　地図とスキー場周辺の案内看板図　案内絵図を照らし合わせ、聞きながら探すことになりましたが、なんとか　ハチ北高原の水芭蕉にも出会えました。

【ハチ北高原の水芭蕉】

- 新聞で見た私設の水芭蕉栽培地
  ハチ北高原　水芭蕉の里
- 加保坂で教えてもらった
  ハチ北高原　小沼の栽培自生地

ハチ北高原散策マップ

高原の風の中、
散策で出会える
可憐な草花たち。

お気に入りの花を
見つけながらゆったりとした
高原の散策を
楽しんでください。


ニリンソウ【キンポウゲ科】
開花時期●4月中旬～5月中旬


スイセン【ヒガンバナ科】
開花時期●4月中旬～5月上旬


タニウツギ【スイカズラ科】
開花時期●5月～6月初旬


ボタン【ボタン科】
開花時期●5月上旬～5月下旬


ザゼンソク
座禅草【サトイモ科】
本州には多い。暖地には見る。
座禅姿に似ているところから仏座
草（ぶっそうそう）とも呼ばれる。
●開花時期●
4月中旬～4月中旬


ミズバショウ
水芭蕉【サトイモ科】
湿地には見る。葉は長楕円
形で香り病がある。春には
白い仏炎苞（ぶつえんぽう）
に包まれた花序を出す。
●開花時期●
4月上旬～5月中旬

【ハチ北の神々様】
(1) 六体地蔵
(2) 太田神社
(3) 地蔵堂
(4) 龍宮神社
(5) 愛宕神社
(6) 千鳥地蔵
(7) 大山祇神社
(8) 中ノ宮神社

※駐車場は駐車料金無料です。
※植物など荒らさないで下さい。
※ゴミはお持ち帰り下さい。





● 新聞で見た休耕田を利用した私設の水芭蕉栽培地
ハチ北高原　水芭蕉の里

標高700m付近にある休耕田を利用して水芭蕉が人工栽培されている。
ハチ北高原スキー場ファミリーゲレンデ駐車場のトイレの裏手の坂道をのぼり、
マセンジョーやパトロールセンターの前を通過し、坂を下ったところ。
石碑や小屋があり、山手側の狭い谷に段々畑の湿田が整備され、
水の中で整然と水芭蕉が並んで、花を咲かしていました。
いかにも植えられたと見える水芭蕉　加保坂で自生の水芭蕉を見た後だけに
この整然と並んだ姿は　いかにも人工的で　私にはちょっと気にいらず。


ハチ北高原　水芭蕉の里



ハチ北スキー場ゲレンデ上部から温泉街越しに眺める妙見山　2016.4.20.



ハチ北スキー場ゲレンデ脇に植えられた黄色の水仙が満開に　2016.4.20.

中央奥の車を止めた場所がハチ北高原大沼湿原の入口



ハチ北スキー場ゲレンデ脇に植えられた黄色の水仙畑が満開に　2016.4.20.
奥に妙見山がながめられ、手前の水仙畑と白樺の木も結構有名と聞く



中央奥の車を止めた場所がハチ北高原大沼湿原の入口



大沼湿原　2016.4.20.



周囲をめぐる木道が整備されている大沼湿原　2016.4.20.

湿原にはほとんど水がなく、また水芭蕉が咲いていないかと一周しましたが、見つけられず。
また　さらに奥の小沼へ自然観察路が伸びていると入口にありましたが、
雑木林の中　道も荒れていて　小沼へ行けずに引き返しました。
また春浅い芽吹きの高層湿原　尾瀬の道をお見出しながらの気持ちのいい空間です。



水芭蕉が咲く小沼への入口

水芭蕉が咲いていると聞く小沼へは
結局元のスキーゲレンデ脇の遊歩道に戻って さらに上へ
登ったゲレンデ最上部脇に入口を見つけました。
雑木林の中に入り、少し下るとすぐに 水芭蕉が咲く湿原
が飛び込んできました。


水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼　　2016.4.20.



水芭蕉が咲く八甲北の高層湿原　小沼で　　2016.4.20.



ゲレンデの中で　大沼・小沼の位置関係が全く分かりませんでしたが、家に帰り、google earthでやっと判りました。

また、この大沼・小沼両方を含めて大沼湿原というのかどうかは不明。小沼を先大池大沼を大池と呼ぶこともあるようです



水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼で　　2016.4.19.


ハチ北高原　小沼の水芭蕉　2016.4.20.


水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼で　　2016.4.20.


水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼で　　2016.4.20.


水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼で　　2016.4.20.



水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼で　/　2016.4.20.

ここが自生地ではなく　観察栽培地であることを示すがごとく
湿地の脇に水仙が植えられていました。



水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原　小沼　　2016.4.20.



小沼の周りの雑木林の中で見た
春の山野草(1) エンレイソウ

早春の山野を彩る花の一つ。
大きな三枚の葉が鳥の翼のように広がった真ん中に、小さな花を咲かせる。
山地のやや湿り気のある林内に生え、数本群がって生える場合が多い。

花の名は、漢名の延齢草根からで、中国で乾燥した根茎を胃腸薬などに用いていたことによる。
その独特の姿は、一度見たら忘れられないほど印象的な草花である。

花言葉は

「奥ゆかしい美しさ」「叡智」「熱心」。
大きな3枚の葉の中心に咲く小さく飾り気のない花の姿　また、3枚の萼と6本のおしべと、柱頭が短く3つに裂けためしべで形成される花の姿が神秘的で気品のあることから、これらの花言葉が生まれたという。



小沼の周りの雑木林の中で見た
春の山野草（2）ミヤマカタバミ

ミヤマカタバミ

本州～九州の山地の林の中で、可愛らしい紫色の線の入った白い花を咲かせる。ハート型の葉を3枚つける。
茎や葉にシュウ酸を含んでいるため酸味がある。
夜になると葉が閉じ、睡眠運動をする

花言葉

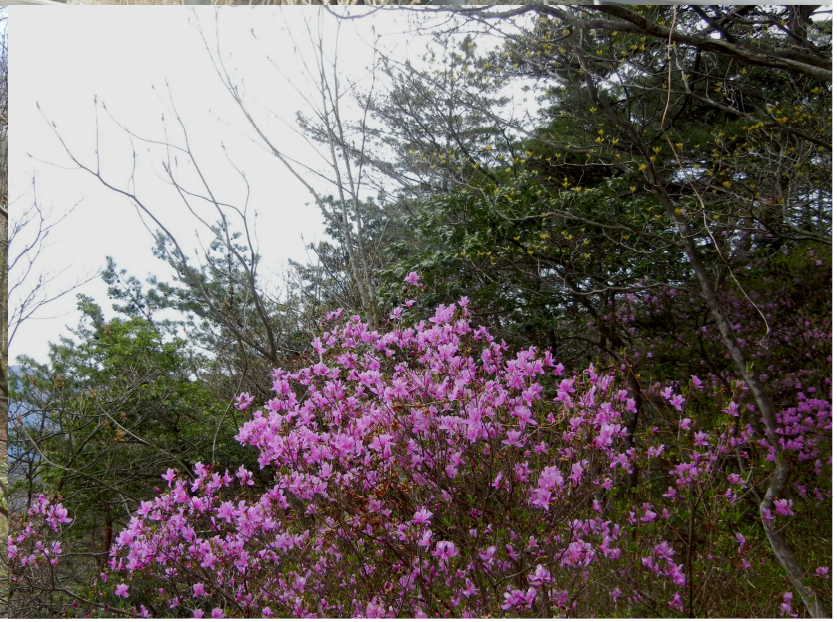
「母親の優しさ」「喜び」「歓喜」

深山の林の中で、ひっそり、柔らかな感じのする花を咲かすことから、上記の花言葉が生まれた。


自生の水芭蕉ではありませんが、かつては自生していた
高層湿原での観察のために栽培されたものと聞く。
久しぶりに林に包まれた尾瀬の林道沿いに咲く水芭蕉を
思い浮かべながらの気持ちの良い芽吹きの春の散策でした。









ハチ北高原から 再度国道9号線を関宮八鹿に戻って、播但有料道路に出て 新緑の但馬路 水芭蕉巡りがおわりました。

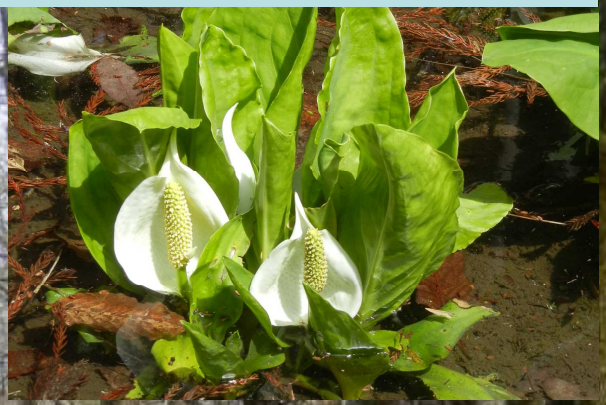
但馬の水芭蕉はどんなところで咲いているのだろうか？　また但馬路の芽吹きの山はどんなだろうか？ 等々
色々　イメージを膨らませて出かけました春の但馬路。
この時期に養父・ハチ北の山里を訪れたのは初めて。　素晴らしい但馬の春景色に幾つも出会えました。
また、大屋加保坂峠の水芭蕉が氷河期から続く自生地であることにも感激でした。

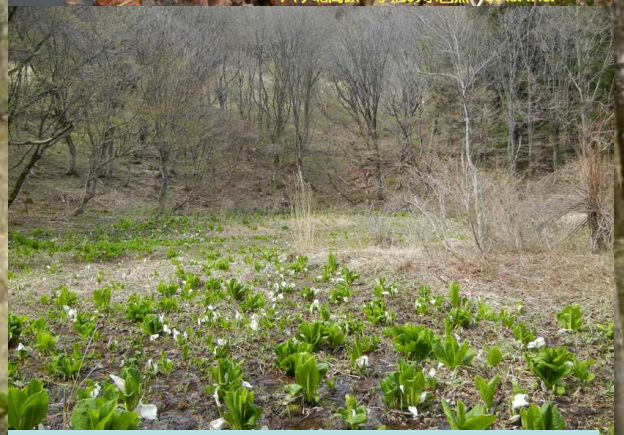
2016.4.19.　播但道生野峠を越えつつ
by Mutsu Nakanishi

水芭蕉の南西限 但馬　氷ノ山山系の山中で育つ水芭蕉　ルーツはさまざま でもその姿を見るとうれしい

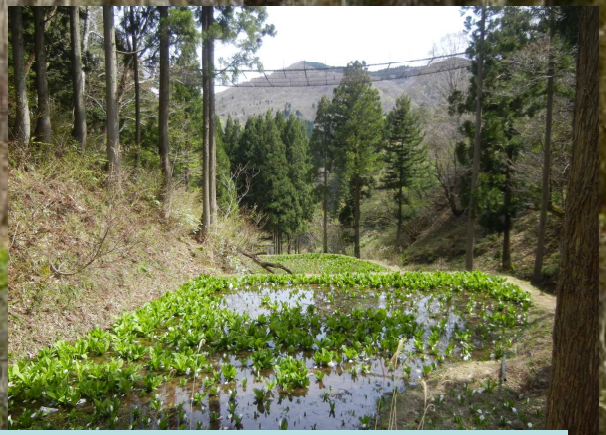












八チ北高原　小沼高層湿原
自然環境の中での観察用栽培

加保坂峠　高層湿原自生地
自然の中で南西限自生

八チ北高原　水芭蕉の里
休耕田を利用した栽培

氷河期の生き残り　水芭蕉。 最近の地球温暖化のなかで、自生地だった高層湿原の乾燥化が進み、
環境適用を果たしながら　命をつないできた水芭蕉とは言いながら、その環境はますます厳しくなっている。
そんな地球環境の中　水芭蕉の最南西限で　自生地・自生地に近い自然人工環境・休耕田人工環境の
3つの環境で咲く水芭蕉を見ることができました。
野草と乾燥化と戦いながら、大きくはなれず　小ぶりながらもたくましく生きてきた加保坂湿原の水芭蕉。
その歴史を聞き、その姿に私は一層　惹かれ、また　その元気な姿に安堵も。 頑張れよ!! と。

芽吹きの春の水芭蕉　どの水芭蕉に一番惹かれるかは　人それぞれ。
自然・人工・人工自然　それぞれでの美しさ。 人間のやってきた自然破壊にも　思いをはせる良い機会でした

新緑の但馬　養父・ハチ北高原

大屋加保坂・ハチ北の水芭蕉を訪ねる　2016.4.20.

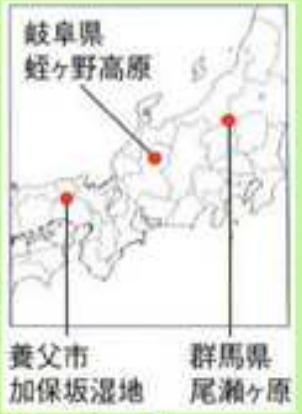




西日本で唯一の自生地　加保坂の水芭蕉

養父市大屋町 加保坂水芭蕉公園





氷ノ山山系が守ってきた氷河期の植物の生き残

分布圏の外側のピンポイントで生育している
日本西南限　隔離分布の水芭蕉

新緑の但馬　養父・ハチ北高原

大屋加保坂・ハチ北の水芭蕉を訪ねる　2016.4.20.

おしまい　by Mutsu Nakanishi















香美町
村岡

ハチ北高原

水芭蕉★小沼

9

養父市
関宮

加保坂峠
水芭蕉公園★

★樽見大桜

八鹿氷ノ山IC◆

養父

312

北近畿豊岡自動車道（無

和田山IC◆

新緑の但馬

2016 春